

平成30年度 第2回櫛引地域振興懇談会 (会議録・概要)

○日 時：平成30年7月31日(火) 午後2時から午後4時25分まで

○会 場：櫛引庁舎 第1会議室

○出席者：敬称略

(出席委員) 小林 幸一、菅原 勝、小林 良市、遠藤 勉、上野 由部、佐藤 治郎作
清和 ふみ子、釧持 澄子、鈴木 光秀、重松 美鈴、小林 範正

(欠席委員) 木村 英俊、武田 啓之、渡部 聖一、佐藤 正幸

(市 側) 櫛引庁舎支所長 佐藤 浩、総務企画課長 宮崎 哲
市民福祉課長 佐藤 美鈴、産業建設課長 早坂 進
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 遠藤 直樹
地域振興課地域振興専門員 本間 育子、総務企画課 五十嵐 潔

一次 第一

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 櫛引地域振興計画策定の進捗状況について

(2) 櫛引まちづくり未来計画策定の進捗状況について

(3) その他

4 そ の 他

5 閉 会

.....

1. 開会

総務企画課長

皆さんお揃いですので、ただいまから平成30年度第2回櫛引地域振興懇談会を開会いたします。始めに櫛引庁舎佐藤支所長よりごあいさつを申し上げます。

2. あいさつ

支所長

皆さん、こんにちは。本日は、公私ともにご多用のところ、また、連日の猛暑の中、第2回の櫛引地域振興懇談会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また、皆様方には、日頃から、櫛引地域の振興のために、それぞれのお立場で大変なご尽力をいただいておりますことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、先週末からの台風12号でございますが、西日本を直撃するというところで、心配したところではありますが、報道を見る限りにおいては、被災地でも再避難はありましたものの、大災害には至らずに経過しているものと私的には感じているところでございます。

櫛引地域でも、先週金曜日には「第8回くしびき夏祭り」、土曜日には「第35回水焰の能」の二つの大きなイベントがございましたので、幾分心配したところではありますが、いずれも盛會裡に終了することが出来まして、安堵しているところでございます。関係者としてイベントに参画されました委員の皆様には、重ねて御礼を申し上げます。

さて、本日の第2回懇談会では、一つとして、次期「櫛引地域振興計画」素案へのご意見を頂戴いたします。今一つは、振興計画にも連動する部分がございますが「櫛引地域まちづくり未来

事業計画」にご意見や、新たなご提言をいただきたいと思ひます。

第1回懇談会で申し上げましたとおり、現在「第二次鶴岡市総合計画」を策定中でありまして、この中の各地域の振興策については、櫛引であれば「櫛引地域振興計画」から主要な部分が掲載されるものでございます。

また、基金を財源とする「地域まちづくり未来事業計画」につきましても、まさに、地域の特性を活かしたアイデアや、具体的取り組みへの熱意が試されるものでありまして、実施に当たっては、その方向性は地域振興計画に位置付けられていることが必要とされるものでございます。

5月に開催しました第1回懇談会では、委員の皆様からも自由に、様々な角度から貴重なご意見をお伺いしたところでございます。本日は、鶴岡まちづくり塾櫛引グループの意見や、庁舎職員による「ワーキンググループ」、更には庁舎各課職員による検討やアイデア出しをもとに、素案なり、主な事業案を示しております。委員各位の意見の取りまとめと反映は、庁舎が行いますので、自由に忌憚のないご意見をお願いし、徐々に成案にしていきたいと思います。

挨拶は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 協議

総務企画課長

続きまして協議に移りたいと思ひます。議長を会長にお願いします。

会長

暫時の間、進行にご協力をお願いいたします。それでは最初に協議の(1)「櫛引地域振興計画策定の進捗状況について」の説明をお願いします。

説明(総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長、総務企画課地域まちづくり企画調整主査)

「第1回櫛引地域振興懇談会での提言、意見、質問」、「鶴岡まちづくり塾櫛引グループのワークショップでの声」、「櫛引地域振興計画基本方針・主な施策の体系図」、「櫛引地域振興計画(たたき台)」について、総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長、地域まちづくり企画調整主査が担当部分を説明。

会長

ただいまの説明で、櫛引地域振興計画の基本方針が、これまでの3項目から5項目に増えたとのことでありますが、最初に基本方針の「(1)果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり」について意見を交わしてみたいと思ひます。

フルーツランド(仮称)については、場所が産直めぐり周辺ということですが、A委員いかがでしょうか。

A委員

4月に「櫛引地域産業振興プロジェクト推進協議会」で話を聞いたわけですが、産直めぐりが直接に関係するものではないと思ひます。

会長

産直めぐりの会員は、今後も増やしていきますか。

A委員

会員は、常に募集していますし今年も20代の方2名から新規に加入いただきました。

会長

店舗は、会員増に対応できるだけのスペースがありますか。

A委員

販売スペースに関しては、まだ余裕があると思います。販売については、季節感を取り入れながら安全・安心なものを消費者にお届けできるよう頑張っています。

会長

駐車場はどうでしょうか。例えば大型バスなどが来たりしても大丈夫ですか。

A委員

土日やイベント時は、ほぼ満車になりますが、裏のイベント広場などを活用しながらなんとか対応しています。

会長

産直めぐり周辺をフルーツランドにすると、駐車場のことも考えなければならないと思いますが、いかがでしょうか。

A委員

産直めぐりから国土交通省月山国道維持出張所まで繋がることによって、観光に関する情報発信など、かなりのメリットがあると思います。あそこには情報ターミナルもありますので、フルーツランドのエリアは月山国道維持出張所を含んだ形がいいと思います。

産業建設課長

それでは、櫛引まちづくり未来計画の資料「櫛引フルーツランド（仮称）構想」をご覧くださいと思います。エリアとしては構想図の黄色とピンクの点線で囲んだ部分ですが、これはあくまでもイメージですので誤解の無いようお願いいたします。

基本的には、産直めぐりと国土交通省月山国道維持出張所を含め、情報コーナーと民間の販売施設など活性化施設があれば、将来的には「道の駅」登録の条件を具備できるのかなと思っています。また、この周辺一帯には通年でフルーツを紹介できるコマーシャル農園がいいのではないかという意見が若い人から出ています。実際の体験は域内23ヶ所の観光果樹園に行ってくださいようにし、あくまでもここでは「櫛引＝フルーツ」を宣伝するための施設と位置づけ、周辺にはカフェや子ども遊園地もあったほうがいいのかという意見も出されていますが、今後、懇談会委員の皆様や若い人の意見を聴きながら詰めていきたいと思っています。

このページは、南部広域観光拠点整備と併せて、ここ一帯を拠点として櫛引全域が「フルーツの里」というイメージで展開していくという資料となっています。

B委員

色々な箱モノを建てていくわけですが、今のお客様のニーズは、単なるリンゴや梨狩りというようなものだけに志向するのではなく、そこで色々なことができるという発想が今の時代は重要なことなのだろうと思います。様々なことを体験できたりすることにより展開の中で波を作ることができると思います。1年間同じことを行った時に、翌年また同じことを繰り返すようなことではだんだん飽きてきます。その飽きさせない方法を考えながら利用を進めていく必要があると思います。私は賛成できる事業だと思っています。

あと、ブランド化とありますが「フルーツ」そのものがブランドなのか「フルーツの里」がブ

ランドなのか、どちらとして捉えたらいいのでしょうか。

産業建設課長

1点目については、ご意見として伺い具体的な計画に反映させていきたいと思います。2点目については、「フルーツ」も「フルーツの里」も両方ブランドであると捉えています。「庄内でフルーツといえば櫛引」となることが「フルーツの里」のブランド化になると思いますし、「フルーツ」もブランド化し、櫛引のフルーツは安全・安心で美味しいというイメージを作り上げていきたいと考えています。

一例を申し上げますと、8月1日にプレオープンするホテル「スイデンテラス」と産直あぐりの間で、櫛引のフルーツをスイーツに使ってもらえないかと協議しているところです。すぐに具体化できるかどうかはわかりませんが、使っていただけるなら「櫛引」という言葉を入れてもらうようお願いしているところです。「櫛引」とか生産者の名前が入るとそれだけでイメージが全然違いますので、フルーツ全体のイメージ化につながるのではないかと思います。

会長

櫛引地域振興計画（たたき台）の9ページ②の記述に「多品種少量生産ながら・・・」とありますが、そのような認識を持っているのですか。

産業建設課長

多品種については伸ばしていければと思っていますし、少量についても生産量を上げていきたいと考えています。今、そのための基礎データを揃えているところですが、対応できるだけの園地があるのか、担い手がいるのか、将来に向けて後継者をどのように育てていくのかなど、この事業の中でプログラム化していきたいと考えています。

会長

果樹に付加価値を付けることが重要だと考えますが、産直あぐりに出てくる加工品は、個人で加工したものが店頭で並ぶという理解でよろしいですか。

A委員

2通りあります。農家の皆さんが加工して持ってくるものと加工あぐりで加工したものがああります。

会長

フルーツランド構想の中では、加工施設も検討するのでしょうか。

産業建設課長

加工あぐりという加工施設はあるものの、産直あぐり自体で商品を作っていますので、外部からの依頼で試作品を作れるタイミングが無いという意見も出ています。この意味からも、この構想の中でトライアル的な加工場も必要なのではと考えています。

A委員

県にはそのような施設があります。商品化するには、アイデアは自分で用意しなければなりません、専門家も常駐しています。商品が販売に至るまでには色々なハードルがあるわけですが、知恵を借りながらクリアしていけるよう、うまく活用したらいいと思います。

会長

そこは、個人でも利用可能ですか。

A委員

はい、希望を出せば有償となりますが試作品を作ってくれます。

会長

ジュースなどは、企業が製造したものと個人が作ったもの、どちらが人気ありますか。

A委員

今、受託製造は櫛引地域からだけでなく羽黒のブルーベリーだとか朝日の山葡萄、内陸や県外からも入ってきます。何故かかかという、HACCP等クリアしなければならないものが増えてきていまして、みな大きなロットのものが主となり小回りの利く加工施設が無くなってきているからだと思います。逆に最近、新商品開発の委託加工が比率的には大きくなっています。

C委員

全てに共通することですが、人口問題についてです。櫛引地域振興計画（たたき台）の21ページに人口動態推移が載っていますが、平成29年は自然減47人、社会減63人の110人減少となっていて、資料を見ますと平成7年頃から大体この傾向が続いているのかなと思います。平成2年の統計は、出生、転入と死亡、転出が均衡していて、それ以前も大きな増減はなかったと記憶しています。そこで、これから20年後どのような人口構成になるのか予測をしていただきたいと思います。

平成2年の出生数100人台が今の生産年齢人口を構成しているのだと思いますし、これから20年後は、最近の出生数50人台が生産年齢人口を構成することになると思われます。そうすると、色々な産業振興策があるわけですが、これを実現するための最大の課題は担い手の確保だと思います。

櫛引地域では50年程前、水稻を中心に国営の灌漑排水事業や県営の大規模圃場整備事業を行い、そして近代化施設や大型機械を導入して、1人の担い手で2倍の面積に対応できるような仕組みを構築して、余剰労働力を吸収するため企業を誘致し、全体の所得を向上させようとしてきました。しかし、今後は担い手が少なくなるので、同じ面積を半分の人で経営していかなければならないような時代が確実に来るのだと思います。これに対応するためには、ITだとかバイオテクノロジーだとか色々なものが出てきていますが、これらの技術が生かされるまでは暫く時間がかかりそうな気がします。

今後、人口減少に伴い就業構造が変わり生産年齢人口が減っていくことは確かであり、地域の振興策を実現していくためには新たな発想がないと難しいのではないかと思いますので、振興策については、このような視点から練り直していただきたいと思います。

施策全体の方向性については、櫛引の地域資源や特徴などを生かしていくことが述べられていて良いと思いますが、もう少し先を見据えた施策が必要なのではないかと思います。

人口減少については、国でも、農業機械を製造しているような企業でも考えているのだと思います。そのようなシンクタンクを何かの機会を利用し集め、鶴岡からあるいは庄内から提言を行えないか。かつては、庄内の農業は教科書にも載ったくらい日本のモデルになっていたわけで、もう一度ここから発想できるような仕掛けをしてほしいと思います。

産業建設課長

C委員のおっしゃることは、農業分野においても話が出ていまして、将来の目標の一つがIC

T化、もう一つは就労の確保という観点から季節労働の考え方をきちんと整理することです。

ICT化については、水田の水張りなんかは今自動で行う装置もありますし、ヤマガタデザイン社ではビニールハウス12棟を建て、色々行っらしいですが、こういったICT化に向けた取組みが重要になり、それによって生産の省力化が図られることになります。

もう一つは、季節就労者の確保がかなり難しいということです。内陸のさくらんぼもそうですが、季節ごとに場所を移っていく就労者がいる程度まとまっているらしい。それがやがて海外の就労者にとって代わる時代が来るということで、それに対応できるかどうか地方の課題であるとの話を聞いています。

このようなどころまで踏み込んで計画に書き込めるかどうかは別にして、若い人たちの提案として、将来山添高校がなくなるのであれば、そこに季節労働者の宿泊所と研修所を兼ねたような施設として活用しても面白いのではないかとの話も出ています。

C委員

今、山添高校の話が出ましたが、是非研究機関などの担当者呼び寄せ意見交換などができる拠点として活用できるといいと思います。また、あれだけの土地がありますので、例えばモデル的な野菜工場のようなものを造って研究者に実体験してもらえよう、そんな方向で活用してもらいたいと思います。

支所長

人口の減少問題については、減少していくことを見据えながら、この計画の期間である向こう5年間の政策提案をしているわけですが、果樹についても進める中であって農家の悉皆調査を行って、それぞれ分野ごとに近い将来どうなるのかも見据えていかなければならないと思います。調査を並行して行いながら具体的な計画を載せていくことにしています。ただ、10年、20年先の人口は必ず減ることは間違いないですが、それぞれの分野で対応は違ってくると思います。長期的にみた場合の人口減少については、計画書に全体的な課題として記載することは可能ですが、5年の計画で具体的な政策となりますと、分野ごとに調査を行い、担い手の対策を講ずる方策などを書いていくしかないと考えています。

会長

それでは、時間もだいぶ経過してきましたので、全体を通して意見交換を行いたいと思います。D委員、何かありませんか。

D委員

人口が減少していく中で、建物を増やしていくことが負の遺産にならないか心配です。建物を先に建てていくのか、それとも魅力を先にPRしていくのか迷うところです。

例えば、レンタサイクルなどを整備したり、空き家を利用して休憩ポイントを整備したり、若い人たちから実際に来てもらった上で、どのようなものが必要かを判断したら良いと思います。

会長

前回の懇談会で、F委員から「黒川地区は能があるから人口を守ろうというような意識があるのでしょうか。」と質問がありましたが、B委員、どんなものなのでしょうか。

B委員

黒川地区でも、人口の減少は否めないものと思います。黒川能があるから人口が維持できているということはそんなに強くないと思います。現実に黒川地区の中にも空き家が出てきています

し、一人暮らしの老人世帯も増えてきています。ただ、祭りなりがあるが為に、そこに住んでいる人間が関わろうとする力はまだ持っていると思います。その関わる力を持っていけばこそ、祭りの時は外側から見れば盛況に見えますが、実際、内側は厳しいものが間違いなくあります。

現在、氏子数でも上座が85位、下座は120位ですが休座を除き実際に動けるのが112戸位です。能だけのことを考えると、小学校1年生位から当屋を迎える直前の年齢位までで、片座で70を切り始めていますが、役者の団体としては大きいほうだと思います。

ただ、これを何時まで維持できるのかが一番の問題です。様々な壁があるわけで、何を目的とするかでその壁を払うことができるのかできないのか。祭りというものを維持する、黒川能を維持するというを前提に進んで行った場合には、女性や氏子でない者は関わることはできない。これを受け入れないとすれば間違いなく減少し消滅してしまうと思います。その際に生きている黒川人は、500年も続いてきたものを先祖がどのように維持してきたのかを頭に置いて消滅させなければならない。それが義務だと私は思います。

そういった意味で、人口をどうしていくかということについては、維持していこうとするのであれば、外からの人間を入れ込んだり、女性から役者は別としても、もっと祭りとか黒川能に関わってもらい、広域的に宣伝アピールしたり様々な事業を行ったりするところに黒川の女性も、もっと介入していかなければならないと私は思います。そういう組織建てをしていかないと、縮小して減少して消滅してしまうだろうと私は思います。

産業建設課長

資料「櫛引地域まちづくり未来計画 事業 No.7」をご覧いただきたいと思います。若い方々からの提案でユニークなものが記載されています。例えば、伝統的装束・能面の貸出し、写真撮影が行える場の提供や、春日神社が歴史的な建造物として素晴らしいという評価もありまして、プロジェクションマッピングによる黒川能の幻想的空間の展開、コスプレイベントなどの提案があります。地元として、これらのものが受入れられるものなのかどうかご意見を頂きたいと思います。

B委員

個人的には面白い発想だと思いますし、春日神社の舞台の音響は少人数の洋楽器は非常に映えると思います。

このような多目的な活用を、地域民が許容できるかどうかは課題と思います。春日神社の能舞台に女性が上がることは容認できないとする考えが多い中、どのような方向に持っていくか時間をかけていかないとなかなか難しいと思います。

場所の問題ですが、神社仏閣でプロジェクションマッピングが失敗したという例はあまり聞いたことがありません。

それから、5月の末にサントリー文化財団から声をかけられまして大阪に行ってきました。黒川能と熊本県の文楽、それに岐阜県のこども歌舞伎の3つの団体ですが、研究者などと話をしてきました。

熊本の文楽の話聞いて驚いたのですが、人形を操れる人が4人しかいないのに年間200回もの公演を行っているそうです。義太夫が2名、三味線が2名で、いずれも町の職員とのことです。何でかというと、隣接する道の駅から客が自動的に流れてくるようになっていて、客のリクエストに直ぐに応えられるようになっているそうです。かつては、年間300日もの公演を行っていたそうですし、規模ももっと大がかりなものであったそうです。地元では今、2、3年後には昔のレベルまで戻す計画を立てているそうです。特に、職員の義太夫と三味線の4名は、全くの素人で20歳過ぎ、採用と同時に淡路の文楽や大阪の国立文楽劇場などに派遣し研修を積み重ねて、「これはすごいな。」と思ったのと同時に、外側からの力を融合させていかないと伝統芸

能的なものは難しいと感じてきました。

会長

時間がかかり経過していますので、(2)の「櫛引まちづくり未来計画策定の進捗状況について」に移りたいと思います。説明をお願いいたします。

総務企画課地域まちづくり企画調整主査

「櫛引まちづくり未来事業 アイディア(案) 7月27日現在」について説明。

産業建設課長

櫛引まちづくり未来事業計画の「やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業(赤川かわまちづくり計画)」について説明。

会長

E委員、何かありますか。

E委員

農業についてですが、東地区は農業の委託を団塊の世代である65歳以上の方がほぼ受けている状態で、その子どもの40代の人達は兼業農家をするかという、しないと思います。フルーツランド構想ではそれを起爆剤として担い手づくりをするとしていますが、間に合うのか心配です。

例えば、農地付きの住居を用意して、Iターンから果樹栽培に取り組んでもらうとか、地元の人を生かす他に、外部から人を呼び込むことを考えないと大変なことになると思います。担い手対策は喫緊の課題だと思っています。

会長

私の地区も、米農家が9戸になってしまいました。受委託に関しては農家がこれ以上受けられないと言っています。堰掃除なども、間もなくこれまで通りには出来なくなります。本当に困ったことになると思います。

会長

F委員、何かありますか。

F委員

産直あぐりとフルーツランドとの役割分担とか棲み分けをどのように整理していったらいいのか。

産直あぐりの中では、若い就農者を増やそうとする姿勢はあると思いますが、もっとそういうところに力を入れていけば、Iターンだったり「就農するならば櫛引」みたいなことの核に産直あぐりがなれたらと思います。

また、産直あぐりがフルーツランドの柱の1本になればと思いますし、その力があるはずで、Iターン、Uターンする人を増やすため、今あるものを積極的に活用していけたらいいと思います。

会長

G委員、何かありますか。

G委員

新規事業の中で、デマンドバスの運行とありますが、高齢者が運転免許を返納した後の足が無いことが大きな課題ですので、是非進めていただきたいと思います。

会長

C委員、他に何かありますか。

C委員

デイサービス等を行っている福祉施設の関係者から話を伺う機会があり、「今はまだ施設利用の需要はあるが50年先のことを考えると、うかつに拡張などできない。」と話されていました。そうすると、我々のような団塊の世代は施設サービスからはみ出してしまうのではないかと心配になると同時に、彼らは将来の人口推計を非常にシビアに考えているのだと思いました。

そういう意味では、行政施策も人の活動がベースになるわけでありますから、人口構造をきちんと見通していかなければならないと思います。

支所長

人口推計については、次回までにお示ししたいと思います。

市民福祉課長

C委員から、介護施設の空き部屋のお話がありましたが、それに加え介護に従事する人材にも課題があります。厚労省が介護予防に力を入れているのは、介護にあたる人材が不足してことにもよります。

C委員

担い手がいなくなるのは確実なので、それをフォローアップする新しい技術、例えばロボットだとかをどんどん入れていくようにしていかないと、今のようなレベルの社会は営めないのかなと思います。

会長

H委員、何かありますか。

H委員

J A庄内たがわ農協でも、9月に藤島の長沼地区にデイサービス施設を開所します。その状況を見ながら南部の方にも1ヶ所という計画もあります。農家のみなさんが、家族の介護が原因で規模拡大ができなかったということにならないようにしていきたいと思います。

様々な資料を拝見させていただいていますが、ターゲットがどこになっているのか少し見えにくくなっているような気がします。ここに住む人たちのための計画なのか、あるいはグリーンツーリズムなど外から人を呼んでくるような話もたくさん出ていて、デマンドバスなどの計画もあるようですが、格安航空も就航していなければ高速道路もまだ繋がっていない。そういったインフラの整備を急がないと地域の発展につながらないと思いますので、是非一緒になって考えていただきたいと思います。

また、昔ながらの古民家についても、空き家になったからといって壊すのではなく観光資源として活用できないものかと考えています。今では手に入らないような木材が使われていたり貴重なものと思います。

あと、ワイナリーのために農地を企業が取得する例があるわけですが、農地を守るという意味

では企業が入ってきて規模を拡大していくことは結構ですが、周辺地域の農家のまとまりが薄れていくようなことの無いようにと思います。

会長

ありがとうございました。それでは、I委員、何かございますか。

I委員

まちづくり未来事業の中で、デマンドバスに興味を持ちました。何故かという、黒川地区は交通の便が悪く、同居率が年々減っていく中で高齢者だけの世帯がかなり増えてくると思います。そうした場合に、地域の外に出る足がとても重要になってきますので、是非進めていただきたいと思います。

会長

櫛引地域に限定せずに、隣接する羽黒地区などと一緒になって取り組んでいくのも一つの方法だろうと思います。

それでは、最後になりますが何かこれだけは聞いておきたいというものがありませんでしたらお願いします。

C委員

林業についてですが、最近結構な需要はあると聞いていますが、山林は持っていても山に行く機会もなければ手入れもできずにいます。所有権の移転なども含めて国では森林バンクのような仕組みもできました。山形県でも森林環境税を財源に事業を行っていますが、環境整備だとか景観づくりだとか周辺の事業は一生懸命ですが、林業本体の振興に入り込んだ施策が出てこない感じがします。

支所長

全市的な分野であって総合計画の中では議論されていると思いますが、地域の特性を生かして何ができるかということについては検討してみたいと思います。

C委員

田は農地管理公社などの仕組みはありますが、山についてはそのような仕掛けが無いように思います。

産業振興課長

県知事が「やまがた森林（モリ）ノミクス」を提唱し力を入れられていますが、今回の地域振興計画にどこまで書き込むことができるかは検討させていただきたいと思います。

C委員

今回の西日本の洪水被害は、十分に森林の保全ができていないことが原因の一つにもなっているとされています。こういった視点からも森林行政について考えていただきたいと思います。

J委員

旧櫛引町の町有林は管理していますか。

産業建設課長

はい、管理しています。

支所長

勝地の杉は、羽黒庁舎の部材として活用されています。

会長

それでは、協議の（１）と（２）はこれ位にしまして、（３）その他 について何かありますか。

総務企画課地域まちづくり企画調整主査

次回、第３回の地域振興懇談会は、９月２０日前後を予定しています。今日の意見を踏まえてたたき台を見直し計画案という形で提示させていただきます。未来事業計画につきましては、平成３１年度予算で要求するものを第１弾のまちづくり未来計画案として提示したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

会長

それでは協議を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

４ その他

総務企画課長

次第の４その他について皆さんから何かありますでしょうか。

－ 特になし －

５ 閉 会

それでは長時間にわたりましてご審議いただきありがとうございました。以上をもちまして平成３０年度第２回櫛引地域振興懇談会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。